

伊勢塚古墳(藤岡市)

正面前方が南側から見た伊勢塚古墳



標柱と説明板が立っている/「群馬県指定史跡 伊勢塚古墳」とある



両袖型横穴式石室をもつ不正八角形墳とされる/6世紀後半の築造という

県指定史跡

伊勢塚古墳

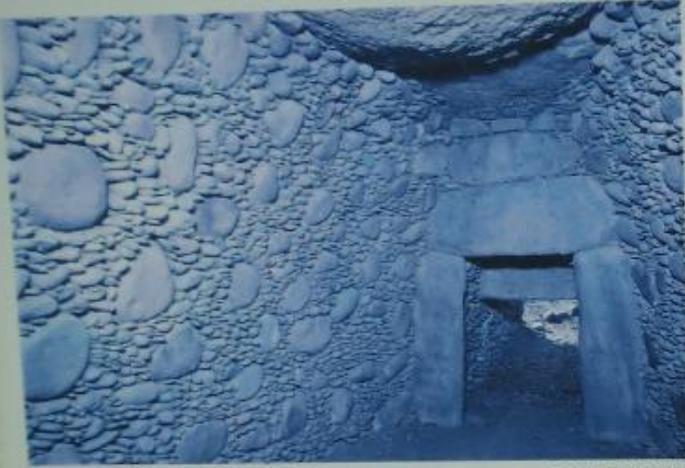
所在地 藤岡市上落合字岡三二八番地ほか
所有者 藤岡市

本墳は当初、円墳と考えられていたが、昭和六二年度の範囲確認調査により直径二七・二メートル、高さ六メートルの二段に築かれた不正八角形墳と考えられる。内部構造は羨道、玄室からなる両袖型横穴式石室で、大きさは八・九メートルである。

石室の石積みに特徴がある。玄室は流麗な曲線を描く胴張りプランで、模様積み(珪岩質の転石を中心に片岩製の棒状の石を配する)と称される独特な石積み技法で、ドーム状の構造になっている。また、疑似楣も架設されている。出土遺物に須恵器、埴輪などがある。六世紀後半に造られたものと考えられる。

平成六年十二月十五日

群馬県教育委員会
藤岡市教育委員会



伊勢塚古墳石室



伊勢塚古墳発掘調査時の墳丘部

西側から見たところ



北側から見たところ



発掘に伴った石がここに集められていた



東側から見たところ/二段築成であることが見てとれる



南側から見たところ/左手に石室の入り口が見える



石室の入り口



羨道を見る



墳丘上部から見たところ





中を覗いてみる



羨道と玄室を仕切る玄門の袖石(立柱石)が両サイドに立つ/玄門上部には疑似楣(ぎじまぐさ)が架設されている(袖石の位置とは微妙にずれていて荷重は袖石に伝わっていないので一つのデザインとして組み込まれているようだ)



疑似楣をアップで見る/羨道の天井石は大きな砂岩の一枚岩/玄門の袖石も砂岩の一枚岩/羨道側壁は丸い転石が積まれている



玄門より玄室内部を見る



玄室内部/側壁は流麗な曲線を描く胴張りをもつドーム状の構造となっているのが見てとれる/奥壁は砂岩の切石/天井石は一枚岩の砂岩の巨石



左手の側壁を見たところ



右手の側壁を見たところ/珪岩質の転石を中心に片岩製の棒状の石を配した「模様積み」という独特な石積み技法が見てとれる



これは墳頂に登って西方向を見たところ/墳頂には祠か何かがあったと思われる礎石が残っていた



こんな風景がそこにはあった/西方向



参考ホームページ

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/huzioka_isezuka2/

<http://members3.jcom.home.ne.jp/yoshi-cp/gfshirsishi.htm#isetuka>

http://www.city.fujioka.gunma.jp/kakuka/f_bunkazai/isedukakohun.html

http://www.city.fujioka.gunma.jp/kakuka/f_bunkazai/kenokuni5.html

<http://www13.atpages.jp/ootama/page005.html>

http://www.sukima.com/33_takasaki08/43iseduka.html

